押切 圧勝で 2冠

駒大苫小牧-中札内中出

全国高校スケートアイスホッケー

女子1000 永田（帯南商）準優勝

【女子1000㍍】前日の500㍍に続き、１分18秒84の大会新記録を樹立し短距離２冠を達成した押切美沙紀

【長野】全国高校総合体育大会（インターハイ）・第60回全国高校スケート競技選手権大会は19日、長野エムウエーブでスピード、長野ビッグハットでフィギュアの第2日を行った。スピードは午前に女子1000㍍を行い、押切美沙紀（駒大苫小牧3年―中札内中出）が1分18秒84の大会新記録を樹立して快勝、初日の500㍍に続き2冠を達成した。永田希絵（帯南商3年）は大会記録を破る1分20秒52で準優勝だった。18日はスピード、フィギュアの初日を行い、スピードは男子500㍍で長谷川翼（白樺学園2年）が2回合計72秒40の大会新記録で初優勝を飾り、準優勝の三輪準也（同2年）ともに白樺学園で上位を独占。村上右磨（帯工3年）が3位入賞と健闘した。男子500㍍は中村奨太（駒大苫小牧2年）が6分40秒41の大会新記録で優勝、小川新太（白樺学園3年）も大会記録を破る6分49秒97で3位入賞した。女子500㍍は押切美沙紀（駒大苫小牧高―中札内中出）が2回合計79秒85の大会新記録を樹立し連覇。永田希絵は大会新記録の80秒79で準優勝した。辻本有沙（白樺学園2年）が3位だった。フィギュアは男子予選（ショートプログラム）などを行い、男子の玉田佳之（帯工1年）は26位で決勝進出を逃した。

（高橋宏幸、塩原真）＝記録は9面

スピード　力振り絞って最後の粘り　押切

圧勝だった。初日の女子500㍍を制した押切美沙紀が1000㍍も大会新記録を樹立、2位のライバル・永田希絵に約2秒もの大差をつけて短距離2冠を達成した。自己ベストも2秒近く縮める好タイム。同じ会場で3年前に行われた中体連以来の全国2冠に、「中学のように2冠したいと思っていた。その目標が達成できてうれしい。タイムも大幅に自己ベストを更新できて満足」と笑顔を輝かせた。

押切の2組前で永田が1分20秒台を出し、少しプレッシャーを感じたが、コーチやチームメートに声を掛けられスタートラインにはリラックスして立てた。無駄な力を入れず、丁寧に滑らせるスケーティングに専念。600㍍通過時点で足に疲れがきたが、「根性でどこまで足を動かせるか。がむしゃらでした」と力を振り絞り、上がりのラップは30秒95でまとめた。全日本ジュニア対策のために取り組んだ中・長距離の練習が最後の粘りにつながった。

「1500㍍まで滑れる小平選手（奈緒、相澤病院）のような選手になりたい」と目標はスプリンターの枠にとどまらない。卒業後に進む富士急は短距離から長距離まで選手がそろっている絶好の環境だ。同世代では2つ年下の高木美帆（帯南商1年）が絶対的な存在だが、「美帆を追いかける気持ちでソチ五輪を目指して頑張りたい」と闘志を燃やしている。

【女子500㍍】表彰で笑顔を見せる１位の押切美沙紀（中央）と２位の永田希絵（左）、３位の辻本有沙

最高の滑り出せず 表彰後に悔し涙　永田

○…「全然タイムが出せなかった。すごい悔しいです」。昨年の1000㍍覇者・永田希絵は大会記録こそ破ったものの、押切美沙紀に連敗。大舞台で最高の滑りを出せず表彰後に悔し涙があふれ出た。

前日の500㍍2本目は自己ベストを更新する快走で手応えをつかんだが、1000㍍は終盤でいつものパワーが出なかった。「最後の1周で体が浮いてしまった。足にきて修正できなかった」と永田。31秒台でまとめる予定の上がり1周を32秒22まで落とした。「せめて19秒台を出したかった。家族も応援に来ていたのに、いいところを見せられなかった」と唇をかむ。

同い年の押切とのライバル関係はスケートを続ける限り続く。卒業後、日本電産サンキョーへ進む永田は「この悔しさを忘れず、絶対に負けない気持ちで頑張りたい」と顔を上げた。

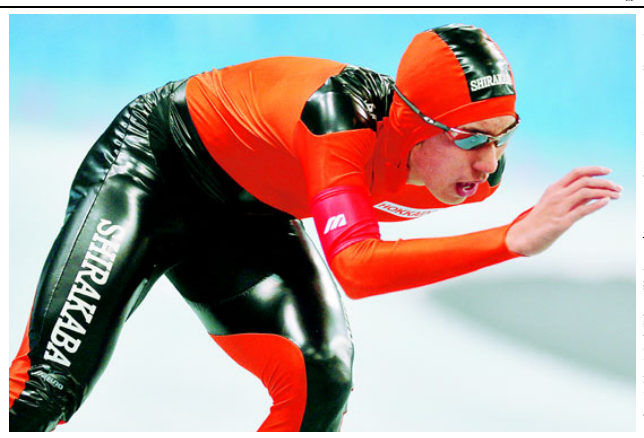
苦しさを乗り越え 主将の責任果たす　小川

○…「責任を果たせて良かった。苦しかったけれど、また一つ成長できた」。学校対抗連覇を目指す白樺学園男子の小川新太主将が、価値ある銅メダルを手にして胸を張った。

今季は調子が上がらず、全道大会は5000㍍5位、1万㍍は途中で転倒し11位。学校対抗にほとんど貢献できなかった悔しさから、正月も返上して1日から弟・拓朗（芽室中3年）とともに芽室町民リンクで毎日練習に励んだ。「必死になった。この1カ月間、技術よりも気持ちが成長できた」。

今回はW杯前半戦を転戦し、アジア大会代表の同走・中村奨太に離されながらも、ペースを崩さず国内ベストを更新。昨年と同じ順位だが、苦しい時期を乗り越え主将として責任を果たせたことと、道外遠征で初めて応援に駆け付けてくれた母・恵美さんの目の前でのメダル獲得という2つの大きな意味を持ち「今年は違う価値がある」。

第3日の20日に得意とする1万㍍が残ある。「高校生活最後のレースになるかもしれない。最後に主将として先生、チームメートに恩返ししたい」と力を込めた。



【男子5000㍍】懸命にコーナーを滑る小川新太

かちまいスポーツ

【男子500㍍２回目】36秒13の大会新をマークし総合優勝を果たした長谷川翼

男子500 長谷川（白樺学園）大会新初V

三輪（白樺学園）2位、村上（帯工）3位

プレッシャーを味方に

「こういう舞台でやっと1番になれた。これまでビッグタイトルとは縁がなかった長谷川翼がついに全国の頂点にたどり着いた。今まで直接対決で一度も勝てず、「雲の上の存在」とまでいうチームメートの三輪準也に0・08秒差で競り勝ち、「いつか勝ちたいと思っていた。うれしいという言葉しか出てこない」と喜色満面だった。

レース前はかなり緊張していたが、遠藤倫哉監督に「顔がおかしいぞ」など冗談交じりの言葉を掛けられ気持ちがほぐれた。「こういう大舞台にしては落ち着いてできた」と長谷川。一けりで大きく進む、独特のスケーティングでグイグイとスピードに乗り、2回とも従来の自己ベストの36秒56を大幅に更新。遠藤監督も「プレッシャーの中で、ベストを更新して優勝したのは大きな成果。強くなったと実感した」と成長を認めた。

インターハイは各種目に1校から2選手までしか出場できないため、長谷川、三輪、田渕浩基（3年）と実力のある3選手がそろう白樺学園の男子短距離は校内の出場権争いが熾烈（しれつ）を極めた。その分、500㍍で出られなかった先輩の田渕のためにも結果を出さなければならなかった。長谷川は「田渕先輩とは夏からずっと一緒に練習して、パートナーで競い合ってやってきた。自分だけで取った優勝ではない。いろいろな人のおかげ」と周囲へ感謝する。

2年になって体が一回り大きくなり、一押しの推進力がアップ。課題だったコーナーも、ジュニア強化選手のソルトレーク合宿の際にタッカー・フレデリクス（米国）の後ろにつかせてもらい、技術が高まった。先週の全日本ジュニアスプリントでは準優勝し、初の世界ジュニア出場を決めた。成長著しいスプリンターは、まだ1000㍍があるし世界ジュニアもある。勝負はこれから。喜んでばかりはいられない」と気を緩めず、次のレースに集中していた。

自己ベスト大幅更新の快走　長谷川

母校のプライド 背負って快挙　村上

○…帯工からただ1人出場の村上右磨が男子500㍍で自身最高の3位に食い込み銅メダルを獲得した。帯工勢の表彰台は、1982年の男子500㍍で準優勝した新保哲以来で実に29年ぶりの快挙。

【男子500㍍】表彰台立って喜ぶ長谷川翼（中央）と三輪準也（左）、村上右磨（右）

今季の帯工は他の部活動も目立った成績を残せなかったこともあり、「自分が結果を出したいと思っていた」と母校のプライドを示す結果に満足そうだった。

現在、帯工にスケート部はなく、父・忠則さんの指導の下トレーニングに励んでいた。昨年10月からは、忠則さんと親交のある元五輪代表の杉山京子さん（旧姓・島崎）からも指導を受け、「考え方が前向きになった」とメンタル面が鍛えられた。

今季はあまり調子が良くなかったが、今回は「緊張しすぎて、逆に考えすぎないで滑れて良かった」と復調の手応えをつかんだ。「これまで悪かった調子がいきなり良くなった。1000㍍も気楽に力を抜いて大きな滑りをしたい」と波に乗るつもりだ。

リベンジ誓う　三輪

○…男子500㍍の三輪準也は1回目でトップに立ったものの、2回目はスタート直後にバランスを崩して手をつく痛恨のミスが響き、逆転負けを喫した。

「35秒台を狙っていたが、それがマイナスに出てしまった」と三輪。気持ちが先走ってしまった点を反省し、「スタートを何千回も何万回も練習して、あんなミスを二度としないくらい自信をつけたい」と今後への教訓と受け止め、リベンジを誓っていた。

スピード　フィギュア

（4位以下関係分）

【男子】◇予選（ショートプログラム、24位まで決勝へ）＝①日野龍樹（中京大付中京）54・33②坪井遥司（岡山芳泉）52・98③田中刑事（岡山理大付）52・54㉖玉田佳之（帯工）32・93

【女子】◇予選（ショートプログラム）▽A＝①西野友毬（武蔵野）49・12②押川ロアンナ紗璃（同）45・66③河野有香（倉敷翠松）44・68

開西 A級優勝

アイスホッケー 全十勝チビッコ御影大会

【清水】アイスホッケーの第32回全十勝チビッコ御影大会（清水町アイスホッケー協会主催）がこのほど、清水町アイスアリーナで行われた。A級決勝は開西が浦幌に4―1で勝利し、優勝。小学3年生以下のC級はAブロックが広陽稲田ブルーインズ、Bブロックは清水御影が制した。

＜A級＞▽1回戦
音更チェスコ 1（1―0、0―0、0―0）0 Vort ex大空
浦幌 8（3―1、3―3、2―0）4 幕別
清水御影 4（1―0、1―2、1―0）2 開西
広陽稲田ブルーインズ 0（4―0、4―0、1―0）0 音更チェスコ
▽準決勝
開西 9（2―0、2―0、5―0）0 浦幌
音更チェスコ 5（1―1、1―1、3―0）1 幕別
▽決勝
開西 5（1―2、3―0、1―0）2 清水御影
▽3・4位戦
清水御影 3―1 音更チェスコ（GWS）
▽決勝
開西 4（1―0、3―1、0―1）1 浦幌
＜C級＞◇Aブロック▽1回戦
音更チェスコ 4（0―0、2―0、2―0）0 啓西・清水御影B
広陽稲田ブルーインズ 6（1―0、3―1、2―1）1 幕別
▽3・4位戦
幕別 5（0―2、2―0、3―2）4 啓西・清水御影B
▽決勝
広陽稲田ブルーインズ 6（2―0、1―0、3―1）1 音更チェスコ
◇Bブロック▽1回戦
清水御影A 10（3―0、3―0、4―0）0 Vort ex大空
浦幌 4（1―1、1―1、2―1）3 開西
▽3・4位戦
Vort ex大空 12（4―0、2―1、6―1）2 開西
▽決勝
清水御影A 21（7―1、7―0、3―0）4 浦幌

少年団スケート選手名を訂正

帯広スケート連盟は、第33回北海道スポーツ少年団スピードスケート競技大会の決勝記録の選手名を次の通り訂正した。

【男子】◆小学4年◇1000㍍＝⑩橋本侃樹（DBFC）
◆小学6年◇500㍍＝③小野塚宏次郎（OSSC）

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶TEL0120-25-9410
Eメール▶sports@kachimai.co.jp
ファクス▶0155-25-2700